

みたま祭りに参加して

豊川小・6 河合 莉乃愛

私は、八月七日に行われたみたま祭りに参加しました。昭和二十八年八月七日に豊川海軍工しようが爆げきされ、多くの方々が亡くなりました。そのみたま供養のために盆おどりをおどる祭りのことをみたま祭りといいます。私が最後に参加したのは、小学一年生の時でした。その後コロナかとなり、去年は練習をしました。当日は雨が降り中止となりました。だから今年は、久しぶりのみたま祭りをとても楽しみにしていました。

八月一日から三日間、豊川稲荷で練習がありました。一年ぶりの盆おどりは、覚えているところと覚えていないところがあり、最初は思いうすことが大変でした。でも、音楽が流れておどっているとだんだんと思いついておどれるようになりました。私がいちばん好きなのは「コンコンばやし」という盆おどりで、なぜかというところ、この曲は手をきつねの顔のようにするところがあり、とてもかわいいおどりだからです。曲も明るく、おどっていてとても楽しい気持ちになります。コンコンばやしの練習の動画がインターネットでも見られるので、みんなにも見てもらって、おどってもらいたいと思いました。

みたま祭り当日は、とてもよい天気でした。お母さんに浴衣を着せてもらい、かみにかわいいかざりを付け、とてもうきうきした気分に参加しました。最初に豊川稲荷の境内でみたま供養のお経を聞

いた後、盆おどりが始まりました。一生けん命練習したかいもあり、自分なりに上手におどることができました。

家に帰ってからみたま祭りのことを考えていた時、盆おどりの前にたくさんのおぼろさんがお経を読んでいたことを思い出し、なぜお経を読んでいるのかとても気になりました。前に参加したのは私が一年生の時だったので、お経を読んでいたことも覚えていませんでした。次の日になっても気になっていたので、お母さんにその話をしました。その時に、みたま祭りが始まった理由でもある、豊川海軍工しようの空爆の話を聞きました。その中で私がいちばんショックだった話があります。それは、私が小さい時に亡くなったひいおばあちゃんが女学校に通っている時、海軍工しようで働いていたという話です。当時は全然学校にも通えず、毎日家から歩いて海軍工しように通っていました。遠いところから来ている人はりょうから通っていたのですが、豊橋市の加茂に住んでいたひいおばあちゃんは家から通っていたそうです。空しゅうがあつた昭和二十八年八月七日、ひいおばあちゃんは熱が出て、その日はまたま休んでいたそうです。本当に偶然休んでいた日に空しゅうがあつたと聞いた時は、熱が出てよかったという気持ちとともに怖いような何とも言えない気持ちと、なりました。ひいおばあちゃんの友達は何人も亡くなっていたそうです。今、自分が昨日まで仲良くしていた友達がとつ然何人もいなくなるなんて想像もできません。少し考えただけで悲しい気持ちになりました。その日にひいおばあちゃんが元気に海軍工しようへ行っていたらどうなっていたのか、考えるだけでおそろしいと思いました。もし、それでひいおばあちゃんが亡くなっていたらおじいちゃんが生まれることもお母さんが生まれることも

ありません。つまり、私も生まれることができませんでした。

今まで戦争は、昔起きたひどいことというくらいにしか思っていないませんでした。でも、初めて自分に関係していたということがわかりました。

それから私は、豊川海軍工しようについて調べてみることにしました。豊川海軍工しようは、海軍の航空機や船などが装備する機じゅうとそのだん丸の生産工場として、昭和十四年にできた工場だそうです。これも驚いたことなのですが、海軍工しようができたことによつて人口が増加して、町や村同士の結び付きが強くなり、昭和十八年に豊川市ができたそうです。去年、豊川市制施工八十周年でいろいろな行事があり、学校でクリアファイルをもらいました。でもそのときは、そのようなことがあつて豊川市ができたなんて全く知りませんでした。

海軍工しようで働いていたのは大人の人だけではなく、私のひいおばあちゃんもそうですが若い女の子も多かったそうです。昭和十九年からは、学徒動員という制度で中学三年生以上の人も働くようになったということもわかりました。私は来年には中学生になりました。私とほとんど年が変わらない人が戦争の武器を作る工場で働いていたなんて信じられません。

そして、昭和二十年八月七日十時ごろ、百三十一機による爆げき機によつて三千百発の爆だんが投下され、二千五百人以上の方が亡くなつたそうです。

私はもつと豊川海軍工しようのことが知りたいと思い、桜ヶ丘ミュージアムでやっている、豊川海軍工しよう展に行きました。そこで絵などの展示物や映像を見ました。また、当時の人が着ていたセ

ーラー服が展示されていました。そのセーラー服を着ていた人は私のひいおばあちゃんとは反対に、お休みだったけれど、蒲郡の家に里帰りするためにその日働いていたそうです。そのため空しゅうにあい、防空ごうの中で亡くなつてしまつたそうです。その説明を読んで、本当に胸が苦しくなりました。

楽しかったみたま祭りをきっかけに豊川海軍工しようについて調べましたが、悲しくなることばかりでした。私が今幸せに生きているのは全然当たり前のことではないのだなと思いました。今の私にできるのは、平和に感謝して毎日を大切に生きていくことだと思えます。そして、来年のみたま祭りでは、今まで以上に心を込めておどりたいです。